

2012年秋学期レポート

## 履修クラス

### 1) Research Method in Social Work ソーシャルワーク研究法

ソーシャルワーク研究法を学ぶにあたって、次のようなメリットが上げられる。

- － 研究文献を効率的に読み、専門知識を身につける
- － 研究が適切な研究だったか、妥当性や信頼性を見極める
- － 介入・援助がクライアントにどのような効果があったのかを評価する
- － そこからクライアントやコミュニティのニーズを発見する
- － サービスの改善・向上
- － サービスの信頼性・妥当性・合理性の証明
- － 助成金取得や法改正への訴え
- － その他

このクラスでは、様々な研究方法や評価方法について学んだ。仮説の立てかた、データの収集方法、データの信頼性や妥当性の測定方法、グラフの書き方、また、既存データや文献の分析方法・解説方法など、多岐にわたる。先生自身も学生の時に研究法学習に苦労していたらしく、生徒が理解しやすい教え方を知っていて、例や図、時には一人劇まで加えてわかりやすく教えてくれた。

### 2) Social Work Practice with Groups and Families

ソーシャルワーク演習：集団と家族

集団や家族を援助するときのスキルを養うクラス。毎回クラスの始めに、クラスメイトの一人がソーシャルワーカーになり、残りのクラスメイト数名がクライアントになって、様々なシチュエーションを想定した模擬グループミーティングを行った。内容は未成年の妊娠、離婚、薬物乱用、など様々である。毎回、想定外の言動や行動がでてくるので、ミーティングが終わった後に、ソーシャルワーカーの受け答えの仕方や問題への対処方法を評価し、私だったらこうする、こうするべきだった、これは良くない、これは良かったなど、みんなで話し合う。実際にやってみると、こういう場合はどうすればいいのか、など、様々な疑問がでてきて、学ぶことがおおかった。コミュニケーションスキルやカウンセリングスキル、問題解決力などを養い、実践的なスキルアップを目指す。

### 3) Social Work Practicum I: Lab ソシャルワーク実習 I: ラボ

2週間ごとのクラスで、現在週2回行っている実習の目標達成状況を確認したり、実習先で学んだことや疑問に思ったことについて話し合うクラス。守秘義務の関係から、詳

しいことは話せないが、それぞれが別々の実習先で学んだ技術や知識を共有でき、それがお互いの支えになったり、意思向上につながった。

#### 4) Global Health 国際保健学

病気に国境はない。グローバル化が進み、旅行が安易になった今、エイズ、結核、マラリア、インフルエンザ、コレラなどは以前よりも急速に広まっている。現在、毎日2,400人以上の子どもが5歳の誕生日を迎えられないまま亡くなっていく。その半数は、先進国にいれば安価で簡単に治すことができる病気である。一方で、先進国では、肥満・2型糖尿病・高血圧などといった生活習慣病が深刻化している。

このクラスでは、国際社会における様々な健康問題、政治・経済・社会・文化面からみる健康水準の背景、各国の取り組みなどを学んだ。また、表題・要旨・序・方法・結果・考察・結論・引用で構成する学論文の書き方についても学んだ。

#### ソーシャルワーク実習

今学期から実習が始まった。Public Defender Service Office of Rehabilitation and Development (公設弁護人事務所社会復帰促進部)に、週2回(8時間ずつ)お世話になっている。公設弁護人事務所とは、経済的理由で弁護人を雇えない被告人に刑事弁護を提供する事務所である。弁護人は国から公務員として雇用された弁護士である。私が所属している社会復帰促進部は、中でも精神的・感情的・社会的・経済的な問題や薬物乱用などといった問題を抱える被告人が、問題なく社会復帰できるよう、社会的資源を有効活用しながら個々のニーズにあわせたサポートを提供する。

今まで学校で学んできたことを活かしたり、現場でしか学べないことを勉強させてもらったりと、ソーシャルワークの技術を体得する良い機会であった。春学期も引き続きPublic Defender Serviceで実習なので、さらなる実践力の向上を目指したい。